

3. 近畿ブロックにおける重点事項

『都市の再生と交流ネットワークの形成（にぎわい近畿）』

近畿が活力を取り戻し、にぎわいある地域として再生するためには、首都圏とのかわりや他のブロックとの連携を重視しつつ、国内外から人々が集まり、交流を活発化するための施策を展開する必要がある。このため、地域住民や市民団体等多様な主体の参加・連携を得ながら、住む魅力、訪れる魅力を高める都市の再生や内外との交流ネットワークの充実、観光の振興に向けた基盤整備などを進めるとともに、近畿の魅力を世界にアピールすることなどにより、国際集客力の向上を図る。

御堂筋や水の都大阪の再生など都市の顔となる地域の整備を推進するとともに、大阪・京都・神戸などにおける都市再生緊急整備地域の整備などにより、まちのにぎわいを取り戻す。

駅前の再開発などによる中心市街地の活性化を図るとともに、大都市における都心居住の推進、臨海部の活用、地域の活性化に資する公園・緑地の整備などにより、便利で住みやすく、訪れる魅力にあふれるまちづくりを行う。

都市圏の環状交通ネットワーク整備、道路交通のボトルネック箇所の解消、公共交通の利便性向上などにより、都市内における道路渋滞の解消を図る。

相互に機能を補完している大都市と地方間の交流を活発化し、首都圏も含む他のブロックとの連携を強化するため、高速交通ネットワークの整備などによる移動時間の短縮を図る。

近畿が一体となったブランドプロモーションなどにより、国際集客力の向上を図る。

『国際競争力に優れた産業の再生基盤の整備（産業活々近畿）』

全国水準を上回る高い失業率に象徴される近畿の経済を回復するためには、豊かな創造性の気風と民の活力を活かした国際競争力に優れた産業の育成を進めるなど、生き生きとした産業に支えられた地域として近畿を再生させる必要がある。このため、産業の活動基盤となる情報・人材・物流などのネットワークの充実を図るとともに、ライフサイエンスや次世代ロボットなど近畿が強みを持つ産業の育成に資する社会基盤の整備などを進める。

研究開発機能、産業機能及び高次都市機能の集積拠点となる地区の都市基盤とそれらを結ぶ交通ネットワークの整備により、「関西知識回廊」の形成を促進する。

交通や情報通信などの広域ネットワークの充実により、産業の活動基盤の強化を図る。

拠点空港の着実な整備やコンテナターミナルの国際水準化などを推進するとともに、港湾・空港のトータルな機能を支援する交通ネットワークの整備により、国際ゲートウェイ機能の強化を図る。

港湾機能の強化とアクセス向上を図ることなどにより、物流コストを低減する。

新事業支援施策の充実、構造改革特区など規制緩和の促進などにより、民の活力を支援する。

『安全で安心できる暮らしの実現（セーフティ近畿）』

これから本格化する少子高齢化社会を迎え、誰もが安心して暮らせる安全な地域づくりを進める必要がある。このため、阪神・淡路大震災の教訓を活かし、東南海・南海地震などの広域的な災害や集中豪雨・高潮・豪雪等による災害への対策を推進するとともに、大規模災害や重大事故に備えた危機管理体制の強化、住民の危機意識の向上を図る。また、地域コミュニティに支えられた福祉社会を支える社会基盤の充実やユニバーサルデザインの推進などにより、安全・安心なまちづくりを推進する。

地震、津波、洪水、高潮、土砂災害、雪害等の自然災害に備えるとともに、ハザードマップの公表や防災訓練などを通じ住民の危機意識の向上を図ることにより、総合的な防災対策を推進する。

防災ステーションや大規模な公園・緑地などの広域防災拠点の整備と広域連携体制の充実、防災情報ネットワークの強化、道路ネットワークの代替性の確保などにより、災害に対する広域的な安全性を高める。

地震時、火災時に大きな被害が予想される木造密集市街地の改善、防災公園の整備、浸水被害軽減のための雨水対策、まちづくりと一体となった堤防整備などを推進し、市街地の防災性の向上を図る。

高齢者や障害者等に配慮した交通安全対策や、住宅、公園・緑地、交通施設、官庁施設などのバリアフリー化を進める。

油流出事故などの重大事故やテロなどに対する危機管理体制の強化、渇水時等に安全な水を確保する適切な水マネジメントの推進など、安心して生活できる体制の整備を図る。

『近畿の歴史・文化・風土を活かした地域づくり（多文化共生近畿）』

経済・社会活動のグローバル化が進展する中、我が国の歴史の中で永々と築かれてきた近畿の文化・風土を保全・継承し、国内のみならず世界の人々との交流を深め、多様な文化が共生する地域づくりを進める必要がある。このため、地域住民や市民団体と連携しつつ、我が国随一の歴史的文化資産の集積を活かした地域づくりを進めるとともに、世界の人々を惹きつけ、来訪・定住しやすい環境の整備を進める。また、これらの蓄積を活かした観光の振興を進める。

伝統的な街並みや美しい田園景観の保存・整備を進めるとともに、歴史的文化資産の保存・活用などにより、近畿の文化・風土を継承する。

歴史・文化・風土に十分配慮した景観の形成など近畿の個性が光り輝く風格あるまちづくりを進める。

独自の歴史や文化を有するそれぞれの地域を結ぶ交流・連携ネットワークを充実するとともに、歴史街道計画の推進など近畿が一体となった観光振興を図る。

世界の人々を惹きつける国際交流拠点の充実に向けた整備を行う。

案内標識の多言語化や情報センターの整備、利用しやすい交通システムの構築などにより、国際性豊かな地域づくりを推進する。

『水と緑の美しい環境の保全・整備（エコ近畿）』

地球環境問題の深刻化や国民の環境意識の高まりを踏まえ、環境への負荷を軽減する社会システムを構築するとともに、近畿の特徴である身近な自然を保全・再生し、豊かな都市環境を形成する必要がある。このため、地域住民や市民団体と連携しつつ、琵琶湖から大阪湾ベイエリアに至る水と緑のネットワークなどの保全・再生に取り組むとともに、人と自然のふれあいの回復や生物多様性の確保に努め、自然と共生した美しい地域づくりを進める。また、ヒートアイランド現象の抑制など都市環境の改善を図り、リサイクルの推進など循環型社会の構築を図る。

干潟や水辺の再生、水環境や生態系の保全等により、自然との共生を図る。

身近な自然や公園などを活用して総合学習・自然体験学習の機会を提供する。

総合的な流域管理の視点から、流域圏を基礎とする森林から海に至る健全な水循環システムの構築を推進する。

静脈物流システムの確立などリサイクルの推進や未利用エネルギーの活用などにより、資源の有効利用を進める。

環境負荷が小さい交通体系の整備や沿道環境の改善、水と緑豊かな都市の実現などにより、都市環境の改善を図る。